

2024年度一宮市在宅医療・介護職員多職種連携研修(第3回)
「みんなで支え合う医療と介護研修会」参加者集計

2024.11.30現在

		第3回	
日時		11月30日(土)	
テーマ		家族介護者へのサポートをどうしていますか？ ～実践事例から考えよう～	
定員		150	
	職種	人数	団体数
所属	医師	1	1
	歯科医師	1	1
	薬剤師	3	3
	訪問看護師	9	8
	看護師	3	3
	リハビリ職種	3	3
	医療ソーシャルワーカー・相談員	5	5
	ケアマネジャー	20	18
	介護職(通所)	2	2
	介護職(訪問)	5	4
	介護職(施設)	1	1
	一宮市地域包括支援センター	6	4
	その他	9	8
合計		68	

市・医師会	6
ワーキンググループメンバー	6
参加団体数	55

グループワークまとめ

2事例のうち1事例を選び、家族介護者への支援でどんな連携が図れるか話し合った。

両事例ともに、本人のみでなく家族支援者の今までの頑張りを認め、どんな支援が受けられるかの情報提供が必要との意見が多かった。また、今後の見通しも含め、家族が本人の病状を理解できるよう説明が必要との意見があった。

多職種での連携については、支援者間での情報の共有やケア方法の統一を図っていくとの意見が多かった。

【事例1】

＜自分が家族支援者だったらどんな支援をしてほしいか＞

- | |
|--|
| ・自分が仕事をしている間の安全。見守りをしてほしい。安全に過ごしてほしい。 |
| ・認知症がこれ以上進んでほしくない。病院に連れていくにはどうすればいいか。 |
| ・介護は初めてなので相談を聞いてほしい。介護の知識、介護をどうしたらいいか、相談窓口を教えてほしい。 |
| ・自分の頑張りを認めたほしい。楽になるために受けられる具体的なサービス内容。 |
| ・行動の遅さが負担になっている。この遅れを取り戻せるのか。不安を聞いて回答してほしい。 |
| ・自分の感情がわからなくなっている。実際に本人ができることを具体的に教えてほしい。 |
| ・自分の生活を維持して介護していくにはどうしたらいいか。今後の展開を教えてほしい。 |
| ・介護保険のことを知らなくてすぐにでも助けてほしい |
| ・介護サービスの情報を知りたい。 |
| ・自分のしてきた介護を共感してほしい。 |

＜支援内容＞

- | |
|------------------------------------|
| ・話を聞いてもらえるところを紹介する。 |
| ・支援の窓口を広げるためにも、受診するよう勧める。 |
| ・放射線治療により体力低下。 |
| ・家族についても情報収集し、生活スタイルに合わせた支援を提案する。 |
| ・GPSの利用など、使用できるサービスの提案。 |
| ・家族の認知症の理解が不十分であるため、医師からの説明をしてもらう。 |
| ・認知症家族会への参加 |

＜どんな連携が図れるか＞

- | |
|-----------------------------------|
| ・情報共有（ささえiネットの利用など） |
| ・民生委員など、地域の人にも協力をしてもらう。 |
| ・保護されたことがあるため、警察や行政とも連携をとれるようにする。 |

【事例2】

＜自分が家族支援者だったらどんな支援をしてほしいか＞

- | |
|-----------------------------|
| ・自分の気持ちを周りに聞いてほしい |
| ・介護保険の情報を提供してほしい。 |
| ・今よりもよくなる方法が知りたい（生活や介護について） |
| ・自分の健康の相談場所 |

＜支援内容＞

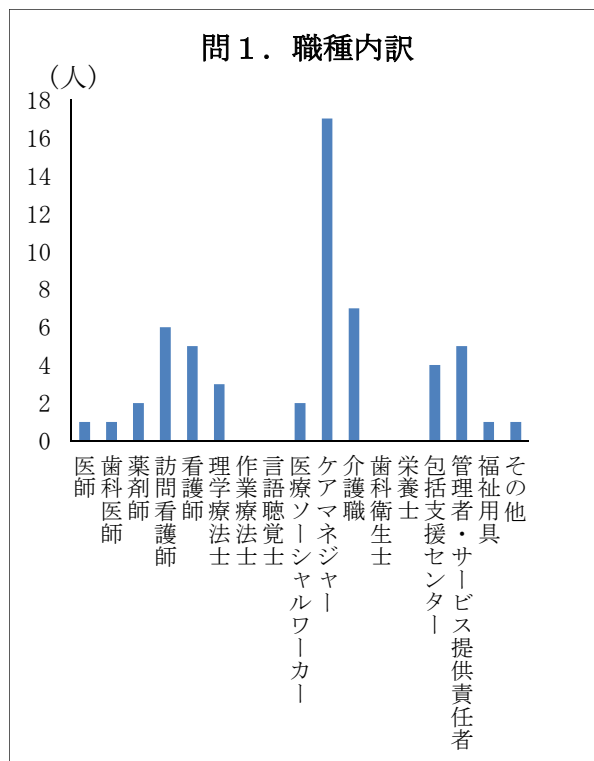
- | |
|-------------------------------------|
| ・夫の気持ちを聞く。夫の気持ちを理解しながら、支援内容を提案していく。 |
| ・病状の説明。 |
| ・夫以外の家族も巻き込めないか検討する。 |
| ・ケアの方法や情報など、押し付けにならないように家族の意思を尊重する。 |
| ・夫の精神的支援。いつでも相談できる先を準備する。 |

＜どんな連携が図れるか＞

- | |
|---------------------------------|
| ・タイムリーな情報の共有（ささえiネット） |
| ・情報を共有し、ケア方法や夫への対応について統一しておくとい。 |
| ・担当者会議などを定期的実施する。 |

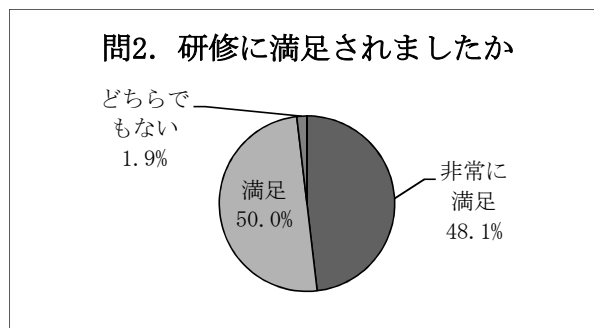
問1. 回答者の職種内訳

職種	人数	割合
医師	1	1.8%
歯科医師	1	1.8%
薬剤師	2	3.6%
訪問看護師	6	10.9%
看護師	5	9.1%
理学療法士	3	5.5%
作業療法士	0	0.0%
言語聴覚士	0	0.0%
医療ソーシャルワーカー	2	3.6%
ケアマネジャー	17	30.9%
介護職	7	12.7%
歯科衛生士	0	0.0%
栄養士	0	0.0%
包括支援センター	4	7.3%
管理者・サービス提供責任者	5	9.1%
福祉用具	1	1.8%
その他	1	1.8%
無回答	2	



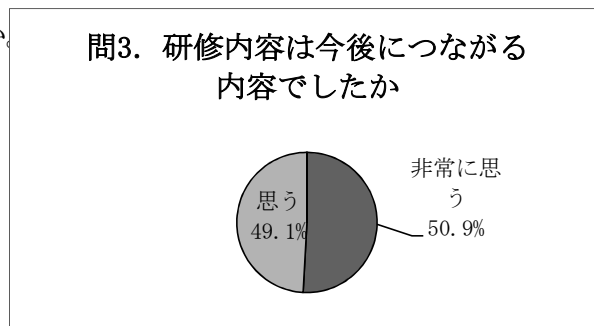
問2. 研修に満足されましたか。

項目	人数	割合
非常に満足	26	48.1%
満足	27	50.0%
どちらでもない	1	1.9%
不満	0	0.0%
非常に不満	0	0.0%
無回答	3	



問3. 研修内容は今後につながる内容でしたか。

項目	人数	割合
非常に思う	28	50.9%
思う	27	49.1%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
無回答	2	

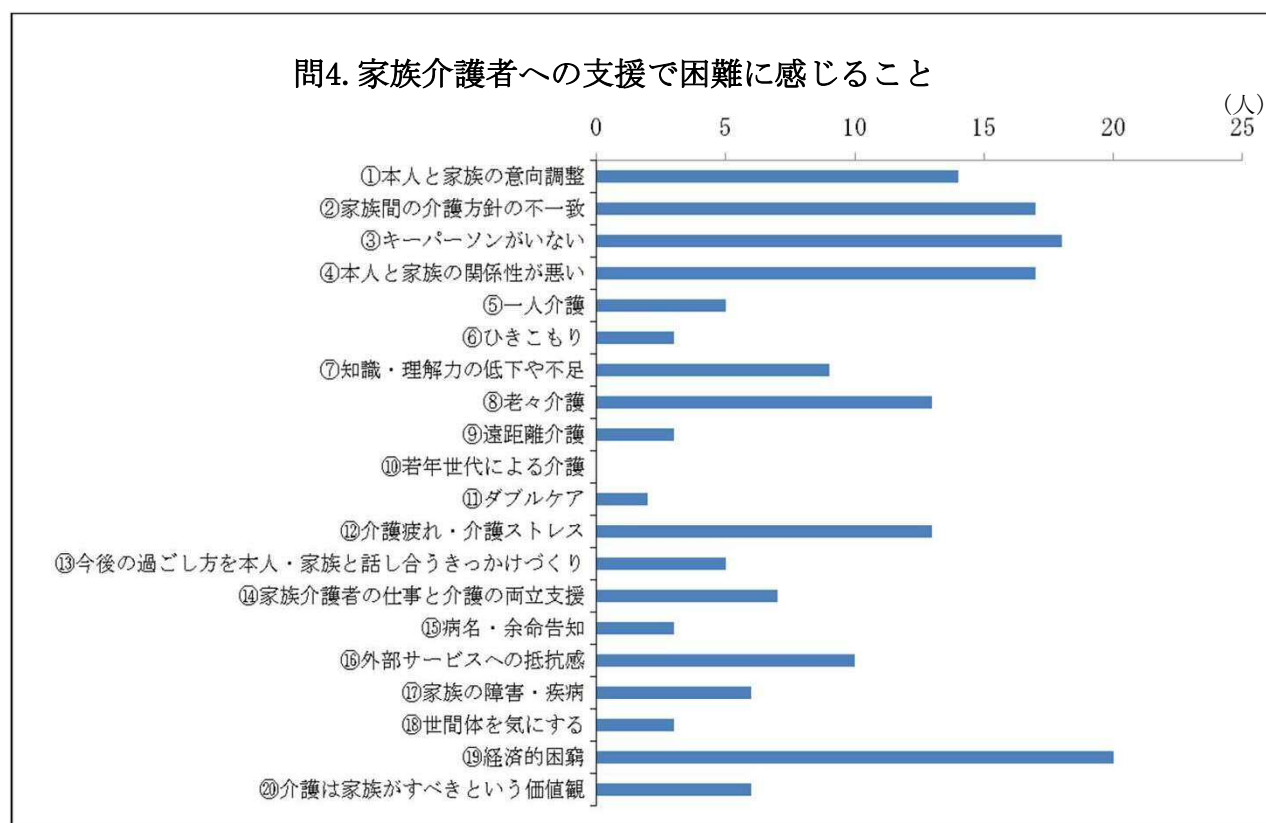


問4. 家族介護者への支援で困難に感じることはどんなことですか。（複数回答）

職種	人数
----	----

問4. 家族介護者への支援で困難に感じることはどんなことですか。（複数回答）

職種	人数
①本人と家族の意向調整	14
②家族間の介護方針の不一致	17
③キーパーソンがいない	18
④本人と家族の関係性が悪い	17
⑤一人介護	5
⑥ひきこもり	3
⑦知識・理解力の低下や不足	9
⑧老々介護	13
⑨遠距離介護	3
⑩若年世代による介護	0
⑪ダブルケア	2
⑫介護疲れ・介護ストレス	13
⑬今後の過ごし方を本人・家族と話し合うきっかけづくり	5
⑭家族介護者の仕事と介護の両立支援	7
⑮病名・余命告知	3
⑯外部サービスへの抵抗感	10
⑰家族の障害・疾病	6
⑱世間体を気にする	3
⑲経済的困窮	20
⑳介護は家族がすべきという価値観	6



問5. 家族支援に関する研修の希望内容（記述）

次に家族支援に関する研修を開催する場合の希望として、家族介護者が精神疾患・認知症等がある方への対応、メンタルヘルス、具体例支援内容に関するもの、重層的支援、病名告知に関する内容等があった。

・ 家族介護者が障害のある方の対応をどうしたらよいか
・ 高齢者と障害者の家族支援、地域サービスの利用について
・ 精神疾患のある高齢者の対応・支援 2名
・ 認知症の方の家族支援。
・ 支援者に対するメンタルケア
・ 家族に対する傾聴の方法と言葉のかけ方
・ 家族様の認知症に対する声かけ
・ 家族が非協力的などの場合
・ 難病、ヤングケアラーについて
・ キーパーソンがいない時
・ 重層的支援について
・ 遠方にいる家族とサービス調整方法、第3者の介入を促すことが是か否か
・ それぞれの事業所の強みを知る。
・ どのようなサービスを利用しているか、具体例
・ 家族支援を行う際に使用できる具体例の内容を知りたい
・ 病名・余命告知に関して研修してほしい
・ 経済的困窮
・ 本人の受けたい介護や本人の思いえがく生活はあるが、家族の生活もあり、その様な場合の家族支援について

問6. 研修への意見、今後企画してほしい内容

「身近な話で分かりやすく、リアルな現状を共有できた」「グループワークで他職種の意見をきくことができ、提案できることの枠が広がった」「今後の支援に役立てたい」という意見があった。